

令和 4 年度

かながわの地域日本語教育の 取組状況について

神奈川県国際文化観光局国際課

令和 5 年 2 月 7 日

取組の概要

「かながわの地域日本語教育の施策の方向性」の4つの方向性に沿って、地域日本語教育の体制づくりに向けた取組を進めている。

基本理念

日本語による円滑なコミュニケーションを通じて、外国籍県民等が安心して生活し活躍できる、多様な文化を尊重した活力ある地域社会を実現する

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

- ◆総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置
- ◆市町村等連絡調整会議
- ◆総合調整会議、専門委員会
- ◆日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査
- ◆市町村への財政的支援(補助金)
- ◆専門家による日本語講座開催の促進(初心者向け日本語講座、運営改善支援)

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

- ◆日本語ボランティアの養成・研修
- ◆日本語学習支援に関する研修の実施

③ 地域日本語教育に関する情報提供の充実と外国籍県民等の日本語学習へのアクセス促進

- ◆日本語学習支援に係る相談対応・情報提供

④ 多文化理解の推進

- ◆地域日本語教育に関するフォーラムの実施

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置

概要

総括コーディネーター 1名
地域日本語教育コーディネーター 4名
(政令市・県西地域1名、横須賀三浦地域1名、県央地域1名、湘南地域1名)

※(公財)かながわ国際交流財団

取組実績

- ・ 市町村に対する情報提供
- ・ 市町村補助金を活用した事業への働きかけ
- ・ 市町村・企業等からのニーズの把握
- ・ 複数市町村、関係機関との連携(ネットワークづくり)支援
- ・ ボランティア研修への相談対応、講師紹介
- ・ ボランティア希望者へ日本語教室を紹介
- ・ 日本語教室へのオンライン化支援

課題

- ・ 地域日本語教育の課題に対する市町村の理解は進んでいるが、地域によっては、具体的な取組・事業化につなげることが難しい現状がある。
- ・ 専門委員会報告書で「地域日本語教育が連携を図る関連分野」として整理された「労働分野」との連携が図れていない。

課題への対応

- ・ 具体的な取組・事業化につなげることが難しい市町村には、日本語関連事業の広報協力依頼や多言語情報等関連分野の情報提供なども含め、できることから働きかける。
- ・ 多様な主体との連携として「労働分野(企業団体)」と連携した取組を進める。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

市町村等連絡調整会議

概要

県内の市町村・国際交流協会等が地域の日本語教育について情報共有や意見交換を行うとともに、日本語教育の推進に資する研修を実施する。

取組実績

【第1回】 6/7(火) オンライン開催

- ・ 神奈川県内の地域日本語教育に係る情報共有
- ・ 各市町村の地域日本語教育に係る情報共有
(大和市、綾瀬市の取組紹介、コロナ禍における取組の意見交換等)

【第2回】 10/20(木) オンライン開催

- ・ 地域日本語教育に係る情報共有
(県の取組、市町村支援策、各市町村の取組状況)
- ・ 研修
(川崎市〈やさしい日本語〉ガイドライン、外国人向けの広報媒体における「やさしい日本語」の活用法)

【第3回】 2月(予定) オンライン開催

- ・ 令和5年度の県の取組説明、情報共有・意見交換等

課題

- ・ 市町村により取組に違いがあり、状況の変化・職員の異動等もあるため、**きめ細かく継続した情報共有が必要。**

課題への対応

- ・ 県内外の参考となる取組紹介を行うとともに、研修等を実施し、継続的な地域日本語教育の推進を図る。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

総合調整会議等

概要

県内の地域日本語教育を推進していくため、専門家等から今後の施策に係る助言の聴取等を行う。

【**かながわ国際政策推進懇話会専門委員会(地域日本語教育)**】

8/18(木) オンライン開催

- ・ 令和4年度かながわの地域日本語教育の取組について
- ・ 令和5年度事業の方向性(案)について

1/27(金) オンライン開催

- ・ 令和4年度かながわの地域日本語教育の取組状況について
- ・ 令和5年度かながわの地域日本語教育の取組(案)について

【**総合調整会議(かながわ国際政策推進懇話会)**】

2/7(火)(予定) 対面開催

- ・ かながわの地域日本語教育の取組状況 等

取組実績

今後の 対応

- ・ 現行の文化庁事業の計画は令和5年度(5年間)までとなっているため、**令和6年度以降の地域日本語教育事業の進め方について検討する必要がある。**
- ・ 日本語教育の推進に関する法律において規定されている地方公共団体の基本方針の策定については、既存の「かながわ国際施策推進指針」に組み込むことを想定しているため、指針改定の際に検討する。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査(市町村支援)

概要

日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査
(関係機関約10団体、合計20名以上のヒアリング等の調査)

取組実績

【座間市】

- ・ 日本語教室、飲食店、企業等、計10団体へのヒアリングを実施
- ・ 報告書を2月までに取りまとめ予定

[参考:前年度 伊勢原市、海老名市、愛川町]

課題

- ・ ニーズ把握が進んでいないが、調査の実施に至らない市町村がある。

課題への対応

- ・ 引き続き、市町村の状況・ニーズを把握しながら活用の呼びかけを行う。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

市町村への財政的支援(市町村補助金)

概要

神奈川県地域日本語教育の総合的な体制づくり市町村推進事業費補助金
補助率:国1/2、市町村1/2
国 庫:文化庁「文化芸術振興費補助金(地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業)」

取組実績

【申請自治体】 13自治体

- ・ 川崎市、相模原市、横須賀市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、大和市、伊勢原市、綾瀬市、葉山町、真鶴町、湯河原町

[参考:前年度 7自治体(相模原市、横須賀市、茅ヶ崎市、秦野市、大和市、綾瀬市、湯河原町)]

【日本語教育人材に対する研修】

- ・ 日本語学習支援者育成講座、日本語ボランティア養成講座 等

【地域日本語教育の実施】

- ・ 日本語会話サロン、日本人向けやさしい日本語講座 等

【その他】

- ・ 日本語教室学習教材の提供

課題

- ・ 自主的な取組を推進している市町村がある一方で、外国籍県民が少なく取組が難しい地域との支援の差が大きくなっている。

課題への対応

- ・ 取組が難しい地域については、県モデル事業を活用するなど、県が広域自治体としてフォローしながら進める。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

日本語初心者向けの日本語講座の実施(県モデル事業)

概要

生活に必要な日本語の習得を目指して、将来的に市町村でも実施可能となるよう専門家による集中型の日本語講座を実施。

【横須賀教室】(横須賀市共催)

レベル1: 7/12(火)～9/16(金) 計20回 16名修了

レベル2: 10/4(火)～12/9(金) 計20回 13名修了

[参考:前年度 横浜教室]

【県央教室】(海老名市、座間市、綾瀬市 共催)

レベル1: 8/5(金)～10/19(水) 計20回 5名修了

レベル2: 11/16(水)～2/3(金) 計20回

【オンライン教室】

レベル2: 12/16(金)～2/28(火) 計20回 (実施中)



※レベル1: はじめて日本語を勉強する人
レベル2: ひらがな、カタカナを読むことができる人

取組実績

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

日本語初心者向けの日本語講座の実施(県モデル事業)【続き】

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

横須賀教室 レベル1:100% レベル2:100%

県央教室 レベル1:100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 学習した後、まわりの人とのコミュニケーションが増えた。
- ・ 勉強の雰囲気がとてもよかった。
- ・ (生活オリエンテーションで)市役所を訪問し、後で自分が行った時に役に立った。
- ・ 与えられた情報の量(学習内容)に比べて期間が短かった。

課題

- ・ 市町村での実施に向けての支援
- ・ 各地域の状況・ニーズに合わせた運営

課題への対応

- ・ 市町村での実施に向けて、必要に応じて日本語講座等の開設に係る支援(講座の企画・カリキュラム作成、運営面での支援等)を行う。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

ウクライナ避難民向け日本語講座

追加事業

概要

ウクライナ等からの避難民が安全・安心に過ごすことができる環境をつくるため、避難民に対する日本語教育を実施。

【日時】

レベル1: 8/29 (月)～9/27 (火)
※レベル1: はじめて日本語を勉強する人
毎週 月曜日から金曜日 (祝日除く)
1回2時間 計20回

【参加方法】

- ① 対面
- ② オンライン (Zoom)

【対象】

ウクライナから神奈川県内に避難されている方

【参加者】

6名修了

【実施(委託先)】

横浜デザイン学院

参考: 資料編 p1



ウクライナ避難民向け日本語講座
Японські лекції для евакуйованих українців.

生活に必要な日本語をウクライナ避難民のみならず、お楽しみしながら、皆さんの参加をお待ちしています！

日時	8月29日(月)～9月27日(火) 毎週 月曜日から金曜日(祝日除く) 午前10:00～12:00 (全20回)
参加方法	希望に応じて、下記いずれかの方法で受講が可能です。 ① 対面: 横浜デザイン学院 ※画面参照 ② オンライン: オンライン会議システム「Zoom」
対象	ウクライナから神奈川県内に避難されている方
定員	20名 ※申込多数の場合は抽選となります。
申込方法	申込フォーム(https://forms.gle/Vaxu7ZBC1H8gn4eHA) からお申込みください。 締切 8月25日(木)翌夜があれば締め切り後も参加可能
問い合わせ先	横浜デザイン学院 電話: 045-323-0300 メール: ukraine.jl@ydc.ac.jp ※ウクライナ語-ロシア語の同音字はご遠慮ください。 アカデмия дизайна Йокохама Телефон: 045-323-0300 Електронна пошта: ukraine.jl@ydc.ac.jp Прізвиля української мови та російської мови приймаються на слухання поштою.

受講費無料

主催: 神奈川県 実務: 横浜デザイン学院

取組実績

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

ウクライナ避難民向けワークショップの開催

追加事業

概要

より実践的な日本語を習得できるよう、ウクライナ語、ロシア語を交えて、参加者が交流しながら日本での日常生活や文化に触れることのできるワークショップを開催。

【日程(予定含む)】

12/23(金)、1/6(金)、1/13(金)、1/27(金)、
2月1回、3月1回
1回2時間 計6回

【実施場所】

かながわ県民センター
横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2
(横浜駅西口徒歩 5分)

【参加方法】

対面

【対象】

ウクライナから神奈川県内に避難
されている方

【定員】

10名/回

【実施(委託先)】

(公財)かながわ国際交流財団

参考:資料編 p3

ЗАПЛАНОВАНІ ДАТИ: 23.12

ЧАС: 10:45

ПОЧАТОК НАВЧАННЯ:11:00-13:00

Розташування: громадський центр префектура
Канагава (5 хвилин ходьби від західного виходу
станції Yokohama, центр префектури Kanagawa 15F,
2-24-2 Tsukaya-cho, Kanagawa-shi, Yokohama)
<https://goo.gl/maps/c5XKJLbaa8ngp8Nv4>

Цільова аудиторія: евакуйовані українці,
які проживають у префектурі Канагава.

Кількість: 10 осіб (порядку проживання, порядку обслуговування).
Навчання безкоштовно.

Застосування <https://forms.office.com/r/vd1SaK17gc>

実施日: 12/23(金)

時間: 11:00-13:00

場所: かながわ県民センター(横浜駅西口徒歩 5分)

横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2 かながわ県民センター15F

対象: 神奈川県内に在住のウクライナ避難民

定員: 10名

費用: 無料

お申込み: 上記 QRコード(下側)

Префектура Канагава проведе навчання
японської мови з поєднанням української та
російської.

Український вчитель, який має великий
досвід життя в Японії, добре обміржує, як вам
найшвидше вивчити японську мову і надасть
послугу навчання, яка буде близькою кожному
серцю, включаючи обмін між учасниками. Будь
ласка, не соромтеся приєднатися до нас.

神奈川県ではウクライナ語・ロシア語を交えながら、日本語を勉強するクラス
を開催します。このクラスでは、日本生活の経験豊かなウクライナの先生が、
ウクライナ人には日本の文化がよくわからない事情などをよく考え、
参加者同士の交流も交え、皆様的心里に寄り添った学習サービスを提供しま
す。どうぞ、奮ってご参加ください。



Любі друзі!

Давайте разом подолаємо
японський мовний бар'єр!

Анонс уроків японської мови для
евакуйованих українців від
українського вчителя!

*Але вчитель буде навчати
(пояснювати) на російській
мові.

日本語の壁を乗り越えよう!
ウクライナ人によるウクライナ人のための
日本語クラス開講のお知らせ

Спонсорство
Канагавапребфектурний уряд
операція
Міжнародний фонд громадських інтересів Канагава

神奈川県主催事業
連絡: (公財)かながわ国際交流財団

ЗАВИТ
БА/АНОВНИЙ ЦЕНТР ПІДТРИМКИ КАНАГАВА,
КОНСУЛЬТАТИВНА СЛУЖБА ПІДТРИМКИ
УКРАЇНЦІВ
TEL: 045-516-2771
CONTACT@KIJFP.ORG

問合せ先
多言語支援センター-かながわ
ウクライナ避難民支援相談窓口
TEL: 045-516-2771
chanet@kijfp.org

取組実績

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 2

ボランティアによる日本語教室等の運営改善等に係る支援(市町村支援)

概要

地域のボランティアによる日本語教室がこれまでの課題や問題点等を解決し、継続的かつ発展的な運営が可能となるよう、専門家の助言や指導による支援を実施。

【実施自治体】

平塚市、藤沢市 [参考:前年度 平塚市]

【概要】

テーマ:オンライン日本語教室の実践に向けた取組

目的:新型コロナウイルス感染症や日本語教室が遠方で対面の日本語教室にアクセスできない状況にある学習者のために、教室の所在地等にとらわれず受講できるオンライン教室運営のノウハウを習得することで、日本語教室の運営を多様化する。

参加者:平塚市 10名、藤沢市6名

実施日:各市全4回、対面開催

平塚市:10/2(日)、10/9(日)、10/23(日)、
10/30(日)

藤沢市:7/19(火)、7/25(月)、7/26(火)、
8/3(水)



取組実績

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 2

ボランティアによる日本語教室等の運営改善等に係る支援(市町村支援)【続き】

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

平塚市:100%(回答数9名) 藤沢市:83%(回答数6名)

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ Zoomの具体的な操作方法だけでなく、地域の日本語教室がめざすこと、そのためにどのように授業を組み立てるか、どのようにZoomを利用できるかを教えていただき、とてもよかった。
- ・ Zoomの知識を理解することができた。今後やりたいと思えるようになった。
- ・ 機材の扱い等はもう少し時間がほしかった。

課題

- ・ コロナ禍の影響等も踏まえたボランティア教室等の課題への支援

課題への対応

- ・ オンラインによる日本語学習支援等の検討

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語ボランティアの養成・研修(市町村支援)

概要

市町村が自立して講座の継続実施ができるよう、日本語ボランティア養成及び実践者研修等に対し、プログラム提供・講師派遣等の支援を実施。

【海老名市・座間市(共同実施)】

参加者:15名(既に活動している方、新たに活動を希望する方)

実施日:全4回 10/1(土)、10/8(土)、10/15(土)、11/26(土)

【綾瀬市】

参加者:9名(既に活動している方)

実施日:全3回 10/19(水)、10/26(水)、11/28(月)

[参考(前年度):平塚市、藤沢市、小田原市、伊勢原市、綾瀬市]

取組実績



② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語ボランティアの養成・研修(市町村支援)【続き】

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

海老名市・座間市(共同実施):100% 綾瀬市:100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 「正しい日本語」を教える必要があると思い込んでいたが、「通じる日本語」「すぐに役立つ日本語」が大切だと知った。もう少し肩の力を抜いて授業で行っていかうと思った。
- ・ 色々なタスクを(学習者のレベルに合わせ)活用する手法は今後の学習者のレベルUPにつながると思った。
- ・ 今まで全く知らなかった情報や教材・教具などを教えていただいたので、今後の活動に活かしていきたいと思う。
- ・ グループ討議の時間が不足するので具体的テーマをはじめに示して欲しかった。

課題

- ・ 市町村の状況・ニーズに合わせた活用の呼びかけ

課題への対応

- ・ 引き続き、市町村の状況・ニーズを把握しながら活用の呼びかけを行う。

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語学習支援に関する研修の実施

概要

地域における日本語教室の実践者(リーダー的人材)を対象に外国籍県民等の学習ニーズの把握や地域に関わる多様な主体との連携を考慮した日本語教室を実践できるよう研修を実施し、教室間・地域間のネットワークづくりの支援を行う。

【テーマ】

- ① 日本語教室が地域の多文化共生の拠点となるためには？
- ② 日本語教室を魅力ある相互理解の場とするには？

【湘南地域】 対面開催

参加者: ①12名、②12名

実施日: ①9/7(水)、②9/25(日)

場 所: 平塚市崇善公民館(ひらつか市民活動センター1階)

【横須賀・三浦地域】 対面開催

参加者: ①11名、②7名

実施日: ①11/5(土)、②11/14(月)

場 所: 横須賀市産業交流プラザ

参考: 資料編 p5

[参考(前年度): 県央地域、湘南・県西地域]



取組実績

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語学習支援に関する研修の実施【続き】

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

湘南地域:①88%、②100% 横須賀・三浦地域:①100%、②100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 外国籍の方とのコミュニケーションが大事であるのはもちろんだが、ボランティア同士のコミュニケーションが教室運営には大切だと実感した。
- ・ ボランティア同士の日頃のコミュニケーションが良好であれば解決できる問題もあると思った。
- ・ グループワークで話し合いながら、いろいろな視点から話すことができ、参考になった。

課題

- ・ オンライン研修となった場合、教室間・地域間のネットワークづくりにつながりにくい。

課題への対応

- ・ 引き続きコミュニケーションの大切さを実践的に伝えていくことで、教室間・地域間のネットワークづくりや、多様な主体との連携に向けて活躍できるような人材を育成していく。

③地域日本語教育に関する情報提供の充実と 外国籍県民等の日本語学習へのアクセス促進

日本語学習支援に係る相談対応・情報提供

概要

- ・ インターネット、電話等により、相談対応及び情報提供を実施。
- ・ 必要に応じて、訪問(アウトリーチ)による相談対応、情報提供を行う。
- ・ ポータルサイト「かながわでにほんご」の運営。
(日本語学習に関する情報提供、日本語教室マップの提供等)

オンライン教室開催支援

- ・ コロナ禍で活動が停滞している日本語教室等へのオンライン教室の開催支援(Zoomの使い方を教える等)

相談対応・情報提供

- ・ 日本語教室や研修講師の紹介等
- ・ ポータルサイト「かながわで日本語」運営



参考:資料編 p9、p13

取組実績

課題

- ・ 支援を必要とする外国籍県民等や支援者にどのように情報が届いているか、より具体的に把握することが必要。

課題への対応

- ・ 外国籍県民等や支援者などの相談者から具体的な情報を得るとともに、訪問(アウトリーチ)の機会を生かして、情報収集に努める。

④ 多文化理解の推進

地域日本語教育に関するフォーラムの実施

概要

日本語教育に関する基本的な理解や関心を深めることを目的としたフォーラムを実施する。

【第1回】 オンライン開催

テーマ: かながわ地域日本語教育フォーラム
居場所としての日本語教室
～コロナ禍で途切れた人との
交流をつなぎ直す～

実施日: 9/23(金・祝) 14:00～16:00

参加者: 165名

オンライン開催 **かながわ地域日本語教育フォーラム**
居場所としての日本語教室 ～コロナ禍で途切れた人との交流をつなぎ直す～

神奈川県では、多文化共生をめざし、地域日本語教育の取組を進めています。今回は「居場所としての日本語教室」について考えるフォーラムを開催します。教室運営に関わるスタッフ、ボランティア、学習者などそれぞれの立場からお話を伺います。皆様のご参加をお待ちしています。

日時 2022年9月23日(金・祝) 14:00～16:00
Zoomによるオンライン開催(視聴用ウェブページ入場可能時刻 13:30)

定員等 定員 **200名(無料)** ※要事前申込
申込者への視聴用ウェブページURLの連絡: 9月21日(水) (予定)

取組実績

【第2回】 オンライン開催

テーマ: かながわ地域日本語教育フォーラム
～職場における外国人とのコミュニケーションを考える～

実施日: 1/29(日) 14:00～16:00

参考: 資料編 p15

参考(前年度)

【第1回】令和3年9月12日(日)開催

テーマ: 地域日本語教育に多様な担い手が関わるためには

【第2回】令和4年1月23日(日)開催

テーマ: 日本語学習の支援を通して外国人が働きやすい職場を考える

④ 多文化理解の推進

地域日本語教育に関するフォーラムの実施【続き】

参加者からの意見等

【参加者の満足度】

第1回:99%(回答数105名)

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- 外国から来た方にとっても、日本のスタッフにとっても居心地の良い居場所があるのは、素晴らしいことだと思った。
- 日本語教室の運営者側だけでなく、そこに通った学習者側からの声を聞いたのはとても有意義だった。これからの、地域の活動に生かしていきたいと思う。
- 地域のために、一生懸命な方々に、心を打たれた。相手の必要なことが、なかなかわからず、ただ教科書に従って日本語を教え続けることに、疲れていたなので、気持ちの切り替えになったと思う。

課題

- フォーラムのテーマ設定

課題への対応

- フォーラムでのアンケート等、地域日本語教育に関わる方からの意見も参考にしながらテーマを設定する。